

在宅医療の高齢者を介護している家族の 在宅での看取りを可能にした医療内容

板谷 幸恵* 女子栄養大学栄養学部
伊藤 光代 前・高知学園短期大学
籠島 みどり 前・高知学園短期大学

本研究では、在宅医療を継続していた高齢者の家族が、患者の望みを受け入れて介護を継続したあるいは最期まで看取れた医療内容を明らかにすることを目的に、7人の家族に半構成面接法で質的研究を行った。分析の結果、介護を継続あるいは最期まで看取れた医療内容は、1) 24時間の在宅医療、2) 急変時に手術や高度の医療が受けられる病院につなげることと早期の自宅復帰、3) 患者・家族の安寧である。1) 24時間の医療では【家族の覚悟を支援】【看取りの医療】【介護中の医療的ケア】【患者・家族と医師・看護師との気持ちの一体化】の4カテゴリー、2) 急変時に手術や高度の医療が受けられる病院につなげることと早期の自宅復帰では、【急変時の対応と高度医療への連携】【家族の冷静で粘り強い意思を尊重】【自宅の介護を病院で実施】【退院の見極めのはやさ】の4カテゴリー、3) 患者・家族の安寧では、【患者・家族の心根に添う】【人を治療する】【在宅療養の環境を整える】3カテゴリーであった。こうした要因や条件を整えることは、在宅医療に関わる者にとって有益な示唆になると考えられる。

キーワード ⇒ 在宅医療, 看取り, 高齢者, 環境